
私の妄想

変態な愛国者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の妄想

【コード】

N05690

【作者名】

変態な愛国者

【あらすじ】

サーニヤと一緒に寝ているエイラ。隣で寝ているサーニヤを見ていると妄想が止まらなくなって・・・。

(前書き)

「愛の形」の続きです。どうぞ前作も読んでください。

サーニヤが私の腕の中で寝ている。今日もサーニヤは腕枕をしてほしいと言ってきたからだ。もちろん私はサーニヤに腕枕をしてあげる。眠っているサーニヤを見ているのもいいものだな思いつつ、いつものように妄想が始まってしまう。

もしサーニヤが男だったら

（ああ、サーニヤ、サーニヤとの子供が欲しいよ、もしサーニヤが男だったらサーニヤが毎年私を孕ませてサーニヤの子供がたくさん産めるのになあ〜）

なんて妄想をしても実現しないのは分かっている。でもサーニヤとの子供がほしいその気持ちは日に日に強まっていくばかりだ。

（ああ〜サーニヤ〜）

妄想が止まらなくなってきた、サーニヤもう私は本当に変態なんだな…

〜エイラの妄想の中では〜

「エイラ、私を舐めて」

「サーニヤ・・・」

私はサーニヤのを舐める。サーニヤが気持ち良さそうにしているのを見るのが大好きだ。

「エイラ、上手になったね」

私はサーニヤのから口を離して上目づかいで

「サーニヤのためだから、サーニヤを気持ち良くしてあげたいからサーニヤへの想い、最近口にすることは簡単にできるようになってきた。しかしサーニヤに本当に伝わっているのか不安にある。でも私はサーニヤの奴隷なのだからサーニヤの望みをかなえること以外考えちゃいけないはずなのに、後でちゃんとサーニヤにお仕置き

してもらわなきゃいけないな。でも、不安な気持ちがもう我慢できない。

「サーニヤ・・・、サーニヤは私のこと愛してる？」

「何を言ってるのエイラ？」

「不安なんだ、サーニヤが私の事を愛してるのか、私はサーニヤの心の中まで見れないからサーニヤの本当の気持ちまで分からないから・・・だから・・・」

そこまで言うと涙があふれてきた。

「サーニヤ私サーニヤがほかの人を好きになってサーニヤに捨てられるかもって不安で仕方ないんだ」

サーニヤの腰に抱きついて幼子のように泣いた。それ以外の方法でサーニヤに不安な気持ちを伝えることが私には考えられなかったからだ。

どのくらい泣いただろう、サーニヤは私の頭を撫でて

「エイラ、私はエイラ以外の人なんてどうでもいいしエイラ以外いない、私にはエイラがいればそれだけで十分なのよ」

「サー・・・にゃ」

「愛してるエイラ」

「私もダ」

(うへへへ、なんてことにならないかな)

「エイラ、何ニヤニヤしてるの？」

「サ、サーニヤ!？」

サーニヤが目を覚まし私を見つめていた。

「エイラもしかして私のこと考えてたの？」

「サーニヤは何でもお見通しだな」

「今考えてたこと私に言ってみて」

「えっとね・・・」

私は今していた妄想をサーニヤに話し始めた。

「エイラは変態な奴隷ね、でも私も同じようなことをいつも考えているの」

「ホ、ホントカ!？」

「だってエイラの事が大好きだから」

(サーニヤ〜)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0569o/>

私の妄想

2010年10月9日13時38分発行